

# メカジキ 南大西洋

## Swordfish, *Xiphias gladius*

### 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

### 生物学的特性

- 寿命: 調査中
- 成熟開始年齢: 調査中
- 産卵場: 熱帯～亜熱帯
- 索餌場: アフリカ沿岸・ウルグアイ沖合水域
- 食性: 調査中
- 捕食者: 調査中

### 利用・用途

刺身、寿司、切り身(ステーキ)、煮付け



### 最近一年間の動き

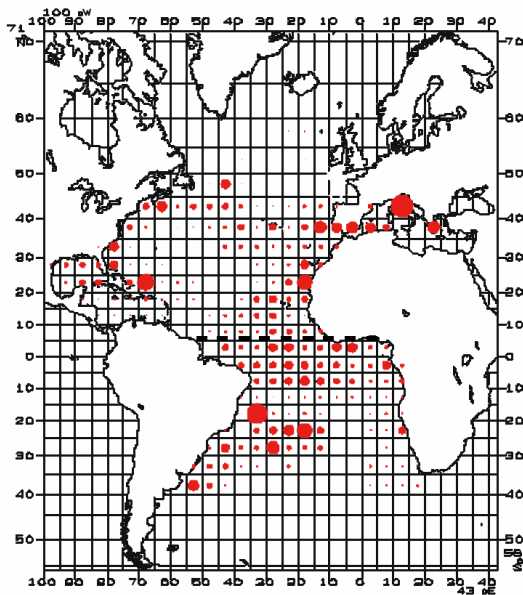
2006年3月のICCATのメカジキの資源構造に関するワークショップでは、地中海・北大西洋・南大西洋の独立した系群が再確認され、南北系群の境界は現行の北緯5度より北の可能性が示唆されたが、境界線の改訂にはまだ不十分。資源量の動向は、情報源によって矛盾した結果が得られた。

### 漁業の特徴

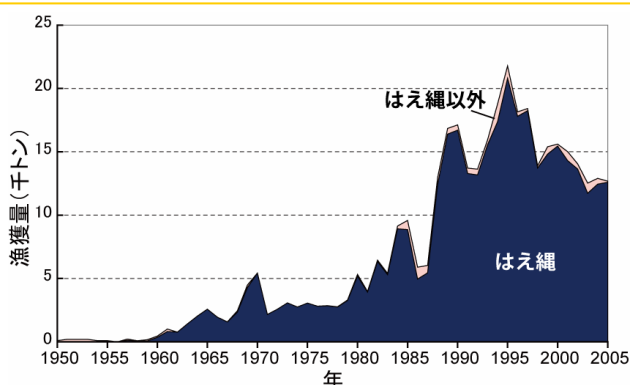
1980年代末までは、主に日本・台湾・韓国などにまぐろ類が主対象のはえ縄で混獲され、総漁獲重量は5千トン未満であった(図参照)。1989年から本種を主対象の浅縄操業でスペインはえ縄船団が参入し、総漁獲量が急増して21,884トンとなった。その後、漁獲量は減少し2005年には12,687トンとなった。

### 漁獲の動向

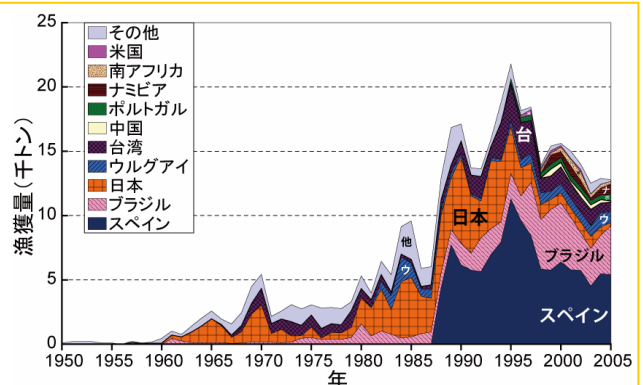
1990年代中旬以降の漁獲量の減少は漁獲規制の導入と、各国のはえ縄漁船の他水域への移動や主対象魚種の変更による。しかし、ブラジル等の一部沿岸国の漁獲量は増加している。1995年以降、日本のはえ縄漁船の主漁場は北大西洋に移り、努力量の減少で漁獲量も大幅に減少し、2005年は269トンと過去最低を記録している。



2001年のはえ縄漁業の漁獲量分布 (ICCAT 2004)  
本資源の想定分布域は北緯5度(太点線)以南



漁法別漁獲量の年推移 (ICCAT 2006)



国別漁獲量の年推移 (ICCAT 2006)

## 資源状態

資源評価はICCATのSCRS(科学委員会)で、加盟国の研究者が共同で実施する。本資源を混獲する漁業(スペイン・ブラジル)と主対象とする漁業で(日本・台湾)で、1990年代中旬よりトレンドが大きく異なったが、どちらも資源状態を正しく反映していないと考えられた。そこでこれら4漁業の平均化した資源量指数と、総漁獲量を用いて非平衡プロダクションモデル(ASPIC、ICCAT公認プログラム)で解析したところ、暫定的な結果では、資源状態は良好で、近年のFは $F_{MSY}$ よりも低く、資源量は $B_{MSY}$ よりも上にある可能性が高い。推定されたMSY(約1.7万トン)は、最近年の漁獲量よりも1/3高い。

## 管理方策

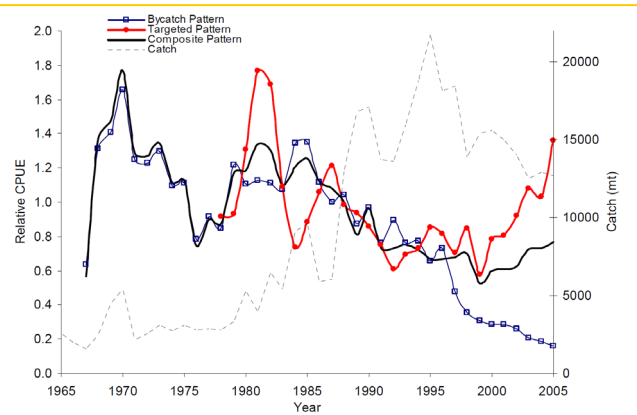
資源評価結果には不明な点が多く、それを明らかにできる十分な調査・研究が行われない限り、漁獲量は推定されたMSY(約1.7万トン)を超えるべきではないと考えられる。

## 資源評価まとめ

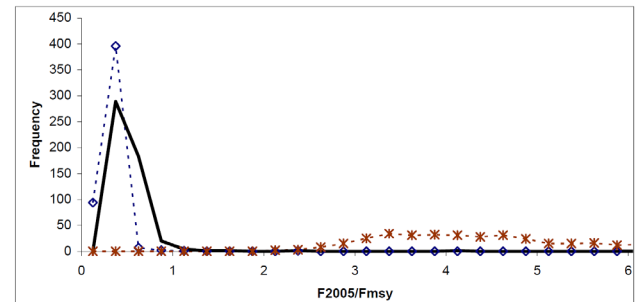
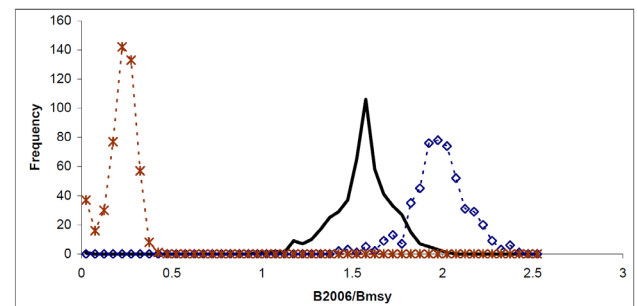
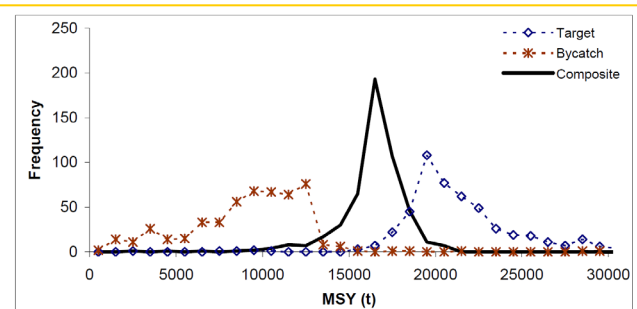
- 資源評価はICCATのSCRS(科学委員会)で実施
- ASPICにより資源評価した結果、信頼性は低いもののMSYは17,000トン程度と推定された
- 資源水準は恐らく中位漸増

## 資源管理方策まとめ

- 資源水準をMSYレベル以上に維持する
- TACを推定されたMSYの約1.7万トン以下に抑える
- 小型個体(下顎叉長125cm/体重25kg未満)の水揚げ量を主対象漁業はゼロに、混獲漁業は15%以下に抑える



ASPICに使用した3つの資源量指数(実線)と漁獲量(破線) 実線の赤・紺・黒は主対象・混獲・両者複合(ICCAT 2006)



推定されたMSY(上段)、 $B_{2006}/B_{MSY}$ 値(中段)及び $F_{2006}/F_{MSY}$ 値(下段)(ICCAT 2006)

## メカジキ(南大西洋)資源の現況(要約表)

資源水準	おそらく中位
資源動向	おそらく漸増
世界の漁獲量 (最近5年)	12,500~15,500トン 平均:13,435トン
我が国の漁獲	269トン(2005年)